

偉大な国際主義者の生涯について

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会副理事長

キース・ベネット

金日成主席は、1992年4月15日、金日成主席生誕80周年を祝賀して催された宴席で、つぎのように述べました。

「わが民族の運命は、世界各国人民の運命と密接につながっています。朝鮮人民は、自己の偉業に忠実であるばかりでなく、世界人民の共同の偉業に忠実であり、民族利己主義に反対し国際主義的信義をつくすでありますよう」

実に、金日成主席の生涯は、偉大な愛国主義者、偉大な国際主義者の生涯でありました。

回顧録『世紀とともに』において、ご自身のもっとも古い政治的な記憶は、朝鮮における幼年時代のものであるとしていますが、金日成主席は、とりわけ10代を中国で過ごし、中国の同志たちとともに革命活動を開始しました。金日成主席が張蔚華をはじめとする中国の同志たちを思いおこしているように、こんにちまで、中国の同志の朝鮮革命への貢献が称えられています。その一方で、金日成主席は、隣国同士である朝鮮と中国の革命は密接に結びついているという認識のもとに、中国の同志たちと一緒に中国人民の解放のためにたたかいました。

その後、日本帝国主義が世界初の労働者階級の国家を攻撃する可能性が高いという緊張が高まったときに、金日成主席は、「ソ連を武力で擁護しよう！」

というスローガンをかかげました。大祖国戦争(ソ連側の呼称である独ソ戦)が1941年に勃発したときに、このスローガンは、より大きな意味をもつようになりました。

1945年、朝鮮人民が日本帝国主義を打倒する闘争で勝利したあと、金日成主席は、数千の古参の兵士を中国東北地方を解放するためのたたかいに送り込み、中華人民共和国の創建に大きく寄与しました。

朝鮮は1950～53年の朝鮮戦争に勝利し、戦後の復興建設の課題を完了した後、ほどなくして旧植民地統治の解体のためにたたかっている世界の多くの民族解放運動への積極的な支援を開始し、連帯を強めていきました。例えば、アルジェリア人民の独立戦争への支援など、朝鮮はいち早く支援を表明した国の一つでした。

世界革命における朝鮮の役割は、1960年代に大きく高まりました。

国際共産主義運動の分裂と社会主義諸国における分断の危機に接したとき、金日成主席は、朝鮮政府や朝鮮労働党が現代修正主義や教条主義にたいして、断固と反対する原則的立場を堅持するよう導きました。それは、左右の日和見主義に反対し、反帝的立場での統一をめざすというものでした。

1966年、金日成主席は、すべての社会主義諸国に、米国の侵略に反対し祖国を擁護するための戦争にたちあがった英雄的なベトナム人民のたたかいに志願者を送り込むよう、呼びかけました。金日成主席は、その言葉通り、ベトナムの領空を侵犯する米国侵略者とたたかうよう、朝鮮人パイロットをベトナムに派遣しました。

この時期、朝鮮は、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ諸国の民族解放戦線や革命闘争を支援したばかりではなく、帝国主義の頭目である米国におけるもっとも革命的な勢力であるブラックパンサー党などと深い連帯関係をきずいていくなど、手を差し伸べていきました。

同様の事例が、金日成主席がプエルトリコ社会党および党首のファン・マリ・ブラスと結んだ深い親交に見られます。

実際、キューバのように、面積としては小さい国ではありますが、朝鮮は世界革命に貢献している国です。

朝鮮は、キューバと一緒に、ニカラグアやエルサルバドル、チリなど、中米や南米、カリブ海地域における革命闘争を積極的に支援しました。

金日成主席はまた、アフリカ人民の闘争とシオニズムに反対するパレスチナ人民の闘争に深い共感を示しました。金日成主席が結んだヤセル・アラファト議長との深い親交や兄弟的關係をみれば、それはわかります。

すでに言及したアルジェリアの闘争と並んで、金日成主席は、アンゴラ、モザンビーク、ギニアビザウ、サントメ・プリンシペ、南アフリカ、ジンバブエ、ナミビア、西サハラなどの人民の闘争に連帯するよう、朝鮮人民を導いていきました。

ベトナムと同様、1973年10月に起きた第4次中東戦争のさいには、朝鮮人パイロットがエジプト空軍と連帯していました。

金日成主席はまた、農業開発や医療チームの派遣などを通じて、アフリカ諸国が独立を防衛し、新社会を建設していけるよう支援しました。赤道ギニアの

オビアン・ヌゲマ・ムバソゴ大統領が国際金正日賞を授与されたときに述べたように、朝鮮は、赤道ギニアがスペインの植民地統治によってもたらされた立ち遅れにさいなまれていたときに、いち早く協力の手を差しのべた国でした。

金日成主席は、真に包括的な世界的視野をもっていました。金日成主席は、たとえその国がどのような小国であろうと、朝鮮からどれだけ離れていようと、その国の人民が反帝闘争に立ち上がり、新社会建設に乗り出しているかぎり、協力の手を差しのべました。朝鮮自体が、米帝国主義と対峙し、核戦争の絶えまない脅威にさらされていた状況下で、社会主義建設をおし進めなければならず、人民の生活水準の向上や朝鮮統一のためのたたかいなど、朝鮮はつねに多くの課題をかかえていましたが、金日成主席は、反帝闘争にたちあがった世界の人民とともにあり、できるかぎりの協力をおし、支援の手を差しのべました。

たとえば、グレナダ人民が、新植民地主義的かいらい政権を打倒し、革命的な政権を樹立したときに、金日成主席は積極的に支援しました。

また、マルタ労働党政権がマルタから英国の軍事基地を撤退させ、非同盟、反帝的立場を表明したときに、金日成主席はマルタ人民を支援しました。

金日成主席はまた、完全な独立と国の統一を達成しようとするアイルランド人民を支援しました。

金日成主席は、ウェールズ党(英国、ウェールズの地域政党)の年次総会に、朝鮮労働党高級代表団を派遣しました。

わたしは、ここでは詳細な解説をしようとしているのではなく、ただの一般的な事例を述べているにすぎません。

金日成主席は、晩年、ソ連が解体し、中央および東欧諸国において社会主義が崩壊するという、国際共産主義、国際労働者階級の運動における大きな挫折に接しました。

このような事態に遭遇して、金日成主席は、逝去されるまでの数年間、世界の社会主義勢力を結集させ、支援し、かれらが自信をもてるように多くの努力を傾けました。

金日成主席は、ソ連・東欧諸国における社会主義の崩壊後、他の諸国間の団結と連帯を強化するために、何回も中国訪問をおこないました。金日成主席の最後の外国訪問も中国でした。

金日成主席は、小さな政党や共産主義運動に属するさまざまな党をはじめ、多くの共産党の党首や代表団を接見し、ソ連や中国、アルバニアやキューバなど、自主的な立場を堅持する国々を支援しました。

金日成主席は、1992年4月、生誕80周年にさいして、金正日総書記とともに、共産主義政党や社会主義政党を結集した最初の集まりとして、「社会主義偉業を擁護し前進させよう」と題する歴史的なピョンヤン宣言の採択を発起しました。こんにち、ピョンヤン宣言は、イギリスのいくつかの共産党はじめ、世界の数百の政党や団体が調印しています。英国からは、英国新共産党、英国革命的共産党(マルクス・レーニン主義)、英国共産党(マルクス・レーニン主義)が署名しています。

いまみてきたように、わたしたちはいま、金日成主席を朝鮮人民の偉大な指導者としてだけでなく、世界史に刻まれたもっとも偉大な革命の指導者として、その生涯を祝福しております。